

平成26年西尾市一般会計補正予算（第3号）について原案反対討論

私は、平成26年度西尾市一般会計補正予算（第3号）について、反対の立場で討論をいたします。

本補正予算のうち、反対するのは、4款衛生費1項保健衛生費10目公害対策費の環境対策事業費749,000円であります。

この事業は「一色地区産廃跡地問題地域会議」設置のための経費とされています。

同会議の目的は、生田地内の産廃処分場跡地について、行政と住民が有識者を交えてどうするのがよいか意見交換し、協議、検討するとされ、その期間は約2年といわれます。

会議の構成員は、一色地区の町内会長など地域の方々3名、漁業組合など産業関係8名ほか大学教授、弁護士有識者などで25名以内を考えているとの説明でした。

しかし、問題は、ここからです。

反対する理由は大きく2点あります。1点目は、この会議が市民に公開されないことです。

市長は、この会議を公開しないばかりでなく、構成員についてもその氏名は非公開というのです。委員会質疑では、私は、この点を質し、公開すべきと指摘しましたが、答弁は、構成員の理解が得られたら…とか、忌憚のない意見を聞きたいからなどとの言い逃れに終始しました。

そもそも、この事件は、市民の見えないところで話が始まり、進行しています。今後も、それを続けるというのでしょうか。これ以上、市民の見えないところで、何をどう議論するのでしょうか。

構成員は、会議の公開を前提に選任すべきではありませんか。

行政との意見交換、情報の開示は、一色の住民からも求めがあったもので、そのこと自体には、私も一定の理解をするものです。しかし、会議への参加は、一色以外からも選任するべきであります。市は、これまで、この事件を、ことさらに一色地域限定の問題として矮小化してきました。しかし、これは単に、一色だけの問題ではなく、西尾市の将来に関わる問題です。市長には、この認識が不足しています。

もう1点の反対理由は、許認可権限をもつ県が、会議に参加しないという点です。

当初は、県がオブザーバーで参加するとの触れ込みでしたが、それはかなわないとのこと。肝心の県が出席せず、その意見も聞けないならば、この会議の意義はどこにあるのでしょうか。住民の望む、行政との意見交換や情報共有は果

26年9月補正予算（一色地域会議） 反対討論 テキスト.txt
たされないことになってしまうのではありませんか。

会議では、何をどのように議論するのか、その出発点は判然としないままです。

そもそも、この跡地は、「汚染水が流出しなければ問題はないわけで、監視は十二分にしなければならないが、現地はそっとしておくのが良く、どうこうする必要はないのだ」という意見が住民のなかにも、議会内にもたくさんあります。

現に、県も市も、現状は問題がないことを明言しています。

跡地を動かすのか、動かさないのか、その出発点によって、議論はまったく変わってしまう可能性があります。そのため、会議が非公開のままでは、新たな建設を容認するのではないかと危ぶむ市民の声も聞かれるようになりました。

市長は、市民に対し、説明責任を果たすべきです。西尾市の将来に関わる問題であることは、先ほども述べました。

西尾市の次の世代に、将来に、重い荷を負わせないために、市長は情報を公開し、説明責任を果たさなければなりません。それが保証されない支出には、私は到底、賛成できません。満場の議員諸君のお考えは如何でしょうか。

市民に見えない議論は、説得力を持つものとはならないことを指摘して、私の原案反対討論といたします。